科学と哲学の境界

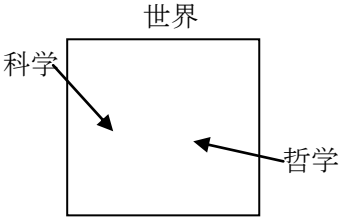
境界設定問題

科学と哲学

近代までは区別なし

哲学　学問全般

自然探求



論理実証主義　Logical positivism

（論理経験主義　Logical empiricism）

20c 前半　ウィーンを中心に展開された哲学運動

シュリック、ノイラート、カルナップなど---ウィーン学団

もともと自然科学者

論理学（とくに記号論理学）

19c　後半　G.フレーゲ

20c　初め　一応の完成---B.ラッセル

科学を哲学から峻別

倫理学、形而上学

科学哲学の成立

論理実証主義

１、分析的言明と総合的言明

総合的言明

「雨が降っている」---真　言葉の意味だけではなく、世界のあり方（事実）にも真偽が依存する

分析的言明

「正方形は等しい四辺をもつ」---真　言葉の意味のみによって真偽が定まっている

「雨が降っているか、または雨が降っていない」---真

P または P でない---論理的真理

言明---真 or 偽

いかにして知るか、どうやって判定するか

総合的言明

事実からいかにして知るか---経験によって

総合的言明の真偽の判定

論理実証主義者：経験によって判定される

明らかにする

事実

問題：規範的言明

総合的言明の中に経験では真偽が判定できないものもある

「人を殺すのは悪いことだ」（倫理的言明）

「哲学者であることはアリストテレスの本質的性質である」（形而上学的言明）

水＝H_2O　本質的

論理実証主義者の見解

意味の検証主義

総合的言明の意味はその検証の仕方である

経験によって真偽を判定する

検証不可能な言明は無意味

科学的言明：総合的で検証可能

規範的言明（哲学）：総合的なようだが、検証不可能→無意味

倫理的言明

形而上学的言明

再解釈

２、倫理の消去

①　エヤー

「人を殺すのは誤っている」

心理的事実を述べる

＝「人を殺すのは、私がそれに否定的な感情をもつので、私が承認する実践ではない」

感情、選好　　態度

② ライヘンバッハ

倫理的言明はそもそも言明ではなく命令または感情表出である

「人を殺すのは誤っている」＝「殺すな！」（命令）

「戦争はよくない」＝「平和な世界であってほしい」（願望表出）

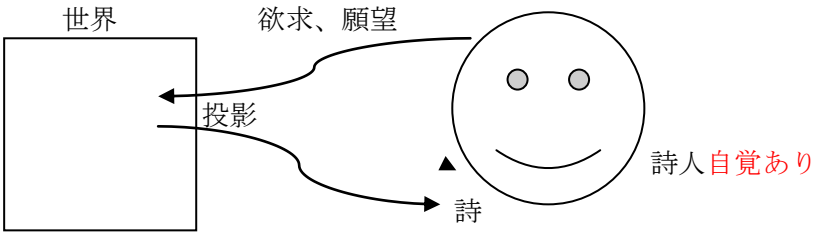
＊記述と表出

泣く→苦痛　「私は歯が痛い」→歯の痛み　「痛い！」→足の痛み

表出　　記述　　表出

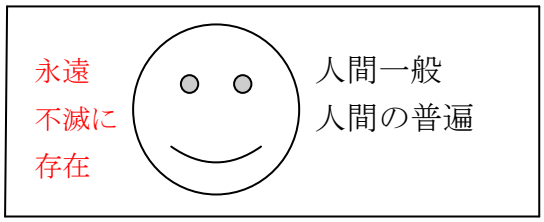
3、詩としての形而上学

カルナップ

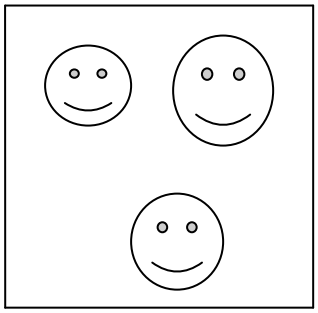


「イデアは非空間的、非時間的領域に存在する」（プラトン）

イデアの世界



世界



永遠不滅の対象が存在してほしいという願望の表出

自覚なし